

江戸城門番役の機能と情報管理

岩淵令治

Function and Information Management of Edo Castle Gatekeepers

IWABUCHI Reiji

- ① 内曲輪門の機能
- ② 門番役の文書作成・管理と運用

【論文要約】

本稿では、江戸城門番のうち、大名に江戸での勤役として課された内曲輪門・大手三門をとりあげ、以下の二点を明らかにした。

第一に、江戸城の門番役については、国内外の戦争なき、平和の世にあって、防衛という機能の実質的な喪失が強調され、本格的な検討は行われてこなかった。そこで、とくに都市空間との接点となる内曲輪門について、個別藩（八戸藩）の事例をとりあげ、その機能を検討した。その結果、空間の管理や祭礼、夜間の通行者といった局面で町人地と接する都市の番としての性格を色濃く持ったこと、また夜間の通行の制限、儀礼の演出や武家の秩序の確認などの機能を果たしたことを明らかにした。

第二に、頻繁な交代の中で勤務を遂行していく基盤となった情報管理について、大手三門も含めて、検討した。とくに注目したいのは、門番役の引き継ぎの際に利用さ

れた「申送」・「申合」、基本台帳としての置帳が、担当藩によって作成され、幕府は関与しなかった点である。門番役について幕府は基本法を作成したうえで、その都度指示を与えたが、その運用や先例の蓄積は各藩に依存していた。こうした結果、内分のマニュアルの成立や、門ごとや家ごとの判断の差異も生じることとなった。このように、江戸城の門番役は、各担当藩の自律性によって遂行され、担当藩の情報共有によって一定度の規律を保ちつつ、家ごとの判断基準の差異もはらんだ形で運用されていったのであった。なお、幕府の組織体の文書作成・管理についてはまだ事例蓄積の段階にある。今回の分析によって、役所が存在し、かつ担当者が頻繁に変わるといふ、従来とは異なる条件での事例を提示しえたと考える。

【キーワード】江戸城門番役、都市の番、儀礼、情報管理、藩の自律性